

新潟市歴史資料だより

資料紹介

鎌倉新田 小柳家文書

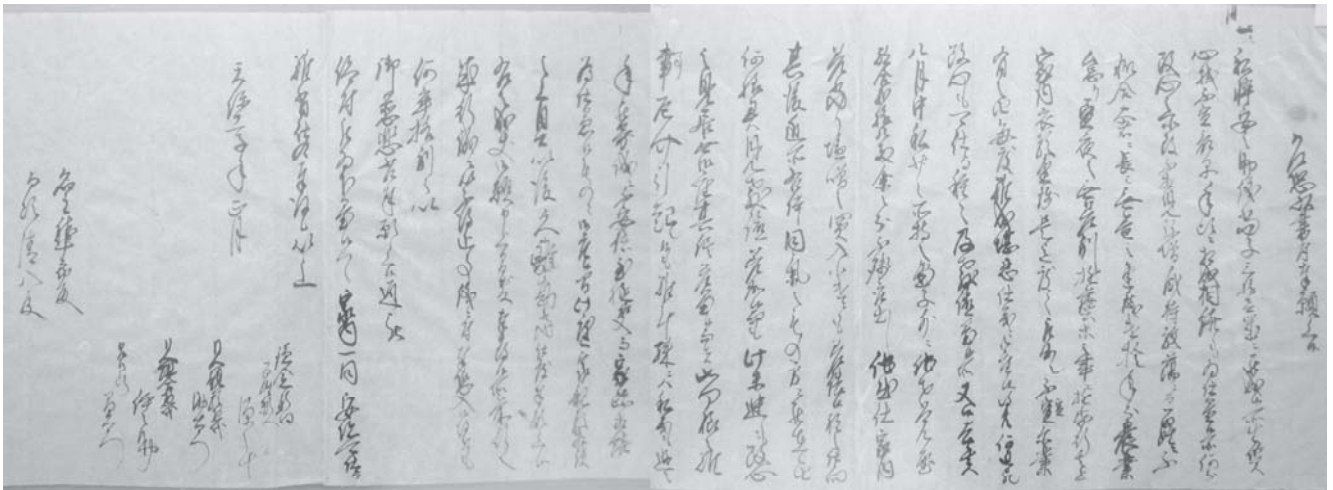
小柳家文書は、江戸時代に新発田藩領だった鎌倉新田（秋葉区鎌倉）の村役人を務めた小柳家の文書で、江戸時代中期から昭和初期に至る約5,700点の文書があります。平成22（2010）年に市へ寄贈されました。江戸時代の文書には、年貢皆済状（年貢完納の証書）や御用留（領主と村の間でやりとりした文書などを写した帳面）のほか、山論（山林の帰属や利用権をめぐる争論）に関する文書や巡見使（幕府が将軍の代替わりごとに各地に派遣した視察役）の通行に関する文書などがあります。

掲載した文書は、天保11（1840）年正月に、鎌倉新田の百姓源之十ほか3名から同村の名主・与（組）頭に宛てて出された文書で、源之十の倅安之助の勘当を許可してほしいと願う文書です。差し出し人の

印が押されていないことから、控えの文書と考えられますが、村での出来事を示す文書として興味深いものです。

文書によれば、安之助は百姓に不似合いの贅沢で、無駄遣いをし、農作業を怠り、昼夜の別なく遊び歩き、その上、家の衣類や金銭を度々持ち出すとあります。家の者はいずれ改心するだろうと色々と教え諭しましたが、またしても家の金を持ち出し、家では塩や味噌を買う金にも困る状況だとあります。このままでは、今後どんな厄介を引き起こすかわからないので、親類で相談の上、安之助を勘当したいので、許可してほしいと願っています。

勘当には、口頭または文書で子に申し渡すだけのもの（内証勘当）と村役人を経て代官（幕領）・領主（私領）に届け出て、台帳に登録するもの（本勘当）がありました。この願いが聞き入れられて、安之助の勘当が正式に許可されたかどうかは分かりません。



乍恐以書付奉願上候

私倅安之助儀、当子三拾三歳ニ罷成候所、生質心掛不宜、最早年頃ニ相成相續も為仕置候所、何分改心之所存不相見、弥増身持放蕩ニ而、百姓ニ不似合奢ニ長シ、無益之金錢遣、拾年分農業怠り、昼夜之無差別遊藝等之事ニ遊歩行、其上家内衣類金銭、是迄度々取出し、不宜所業有之由、毎度難成堪忍仕義ニ御座候得共、何れ敷改心も可仕与種々及教諭置候所、又候去亥八月中、私少々所持之金子外ニ他才覚金都合式拾八兩余之分、不残取出し他出仕、家内差当り塩噌之買入小遣ニも差詰候程之仕向、其後、近所右体同気之もの方ニ罷在候由、何様異見教諭差加候而も、此未迎も改心之見居無御座、其俣差置候而者、如何様之難事厄介引起し候も難斗、殊ニハ私義も追々年罷寄、誠ニ不安堵至極、決而家跡相統為仕兼候ものニ御座候間、此度家親類相談之上、自今以後、久離勘当仕度奉願上候、右者成丈御願申上聞敷奉存候所、前行之成行、誠ニ以不得止事儀ニ付、奉恐入候得とも何卒格別之以御慈悲、右奉願上候通被仰付被為下置候ハ、家内一同安堵可仕与難有仕合奉存候、以上

天保十一子年正月

鎌倉新田

百姓願人

源之十

同人親類惣代

助右衛門

同人組合惣代

伊之助

右同断

間右衛門

名主 勝十郎殿

与頭 清八殿

新潟の歴史 こぼれ話 (その2)

今年8月、かつて関屋にあった米国沿岸警備隊新潟ロラン局に指揮官として務めていたダニエル・チャーター氏が市長を表敬訪問されました。これに伴い歴史文化課ではロラン局について調べました。

ロランとは、船舶が自船の位置を知るための電波航法システムで、複数のロラン局から発せられる電波を受けることによって自船の位置を知ることができます。新潟には昭和26(1951)年頃に米国沿岸警備隊がロラン局を設置しました。場所は中央区の関分記念公園の東側隣接地です。昭和39(1964)年に第九管区海上保安本部に引き継がれ、平成9(1997)年まで、海上を航行する船舶のために電波を発していました。

米国がロラン局を管理していた昭和34(1959)年3月、ロラン局近くの花火工場で爆発火災が発生しました。地元の方の話によると、ロラン局の米兵たちが消火活動に協力してくれたそうです。また、チャーター氏もこの火災についてよく覚えていらっしゃいました。米兵が消火活動に協力したことは当時の新聞には書かれていません。当事者の証言が重要な歴史資料であることを改めて認識させられます。



米国沿岸警備隊ロラン局 昭和33年頃
ダニエル・チャーター氏撮影



新潟ロラン局の跡地
関分記念公園の東側隣接地が跡地。現在は海浜植物園になっている

歴史資料に関する主な事務内容

■資料の公開

歴史資料整備室で古文書等の複製資料や図面・写真、行政刊行物などを公開しています。旧更正図・土地台帳は横越公文書分類センター（江南区役所横越出張所3階）で公開しています。横越センターをご利用の際は、事前に歴史資料整備室へご連絡ください。どちらも1枚10円（カラーは70円）で複写（コピー）できます。データの複写は、フレキシブルディスクは1枚50円、CD-Rは1枚100円、USBメモリは1個1,000円です。

■資料の整理・保存

歴史資料整備室では、市域の各家や組織から収集したり寄贈されたりした歴史資料等の整理・目録作成を行っています。また、資料のマイクロフィルム撮影と焼付による複製本を作成しています。今年度は、昨年度に引き続き豊栄市役所文書（江戸期から昭和期の資料、市指定文化財）の撮影と複製本の作成を行っています。

■資料の所在調査

民間に所蔵されている歴史資料の所在や現況・分量などを把握するため、平成17年度から主に合併市町村を対象に資料の所在調査を実施しています。今年度は北区豊栄地区、秋葉区新津地区、南区月潟地区のほか、旧新潟市域の調査を行っています。9月末までに4か所の調査を行いました。目録がないものは、一部を整理して記録します。また、必要に応じて資料を中性紙封筒に入れたり、中性紙箱に入れたりします。

■文書館整備検討委員会の開催

市では、市域の歴史資料や歴史公文書を調査収集し、保存・公開する文書館のあり方について検討する文書館整備検討委員会を設置しています。今年度は、文書館の基本理念とそれに基づいた事業・施設についての検討を行い、文書館の基本計画案をまとめます。

■歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」の開催

9月6・13・20・27日に、新潟市万代市民会館で、講座「古資料が語る新潟の歴史」を開催し、多くの方々からご参加いただきました。各回の講義名と講師は右の通りです。



講座の様子

日程	講義名	講師
9/6	史料と地層から読み解く平安時代の地震災害	新潟大学教育学部准教授 小野映介
	古代蒲原郡へ逃げてきた家族～神亀三年「山背国愛宕郡計帳」を読む～	歴史文化課 相澤 央
9/13	平清盛の時代における新潟市周辺	新潟大学名誉教授 田村 裕
	白山島関係史料を読む～新潟に「城」はあったか～	歴史文化課 長谷川伸
9/20	新潟奉行川村修就の民政～新潟湊の天保改革～	新潟奉行川村修就 研究者 中野三義
	平島村の御用留を読む	歴史文化課 三田裕子
9/27	開港新潟の外国商人たち	新潟県立歴史博物館副館長 青柳正俊
	旧小吉村役場 教育上申請書を読む	歴史文化課 熊倉忠夫

歴史文化施設紹介
— 旧齋藤家別邸 —

今年6月に開館した「旧齋藤家別邸」は、中央区西大畑町にあります。齋藤喜十郎家は明治期から昭和前期にかけて新潟の三大財閥のひとつに数えられた名家で、本邸は東堀通七番町にありました。別邸は大正7(1918)年に建てられ、平成21(2009)年に市によって公有化されました。

敷地の南側に建物が配され、北側の砂丘部には庭園が造られています。建物は東西に長い形状で南北方向の風通しを良くしています。建物の各部屋からは、異なった庭園の景色を楽しむことができます。庭園は、砂丘地形を巧みに利用して、滝や沢流れ、池などが造られ、マツやモミジなど1,000本以上の樹木が植えられています。街中にいることを一瞬忘れてしまいそうな庭園です。

<案内>

- ・開館時間：9：30～18：00（4月1日～9月30日）
9：30～17：00（10月1日～3月31日）
- ・休館日：月曜（休日を除く）、休日の翌日
年末年始
- ・入館料：一般300円（240円）、小中学生100円（80円）
カッコ内は団体20人以上
- ・所在地：新潟市中央区西大畑町576番地
- ・電話：025-210-8350
- ・交通：JR新潟駅（万代口）バスターミナルから観光循環バスに乗車。バス停「東大畑通二番町」下車。徒歩3分。



旧齋藤家別邸



庭園



写真紹介

3代目萬代橋の建設工事

右に掲載した3枚の写真は、現在の萬代橋（3代目）の建設工事の写真です。明治42（1909）年に完成した2代目の萬代橋は、長さ約782メートル、幅約8メートルの木橋で、交通量の増加や大正期以降の自動車通行のため損傷が激しく危険な橋になっていました。また、大正後期以降に進められた市の都市計画の中で、榎谷小路から萬代橋を通過して流作場へ続く道路が最も高いランクの道路に位置づけられ、萬代橋の架け替えが必要になりました。

架け替え工事は、昭和2（1927）年7月16日に起工され、4年8月23日に竣工しました。鉄筋コンクリート造りの6連アーチ橋で、長さは約307メートル、幅は約22メートルです。長さが2代目萬代橋の半分以下になったのは、信濃川の両岸が埋め立てられたためです。

写真1 橋脚工事では、^{せんかん}潜函と呼ばれるコンクリート製の空洞の箱を水中に沈め、箱に空気を送って気圧を高めて、気圧で水を排除しながら内部で橋脚の基礎工事を行いました。写真1は潜函内部での作業の様子です。天井が背丈ぎりぎりの狭い空間の中で大勢の人が作業しています。

写真2 アーチの建設工事の様子です。木製のアーチの型枠の上に鉄筋が組まれています。この後、橋の両側に^{かこうがん}花崗岩が積み、コンクリートが充てんされます。写真奥には2代目萬代橋が見えます。

写真3 アーチの建設工事が進む3代目萬代橋と2代目萬代橋です。2代目萬代橋には、歩行者のほか自転車や荷車などが通行していますが、自動車は見られません。2代目萬代橋は、3代目萬代橋開通後もしばらくの間自転車や歩行者が利用しましたが、昭和4（1929）年末までに解体されました。

3代目萬代橋は、平成14（2002）年に「技術・意匠ともに当時の最高水準で造られた名橋」として土木学会の選奨土木遺産に選ばれ、16年には重要文化財に指定されました。

お願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら、ご連絡ください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお知らせください。



写真1 潜函内部の作業

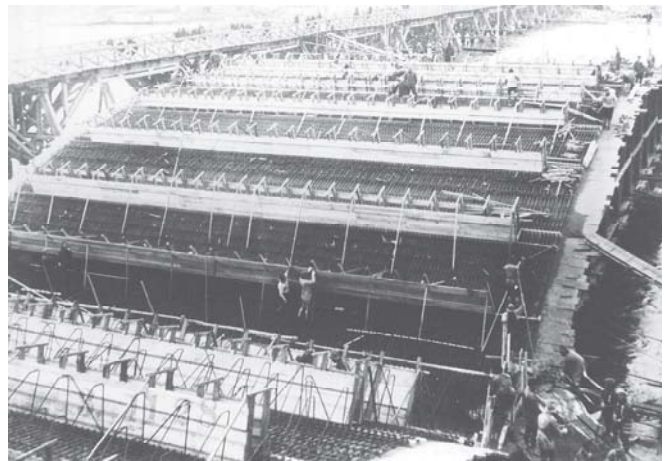


写真2 アーチの鉄筋工事（手前が沼垂側）

写真3 工事が進む3代目萬代橋（左）と2代目萬代橋（右）
（手前が新潟側）

編集・発行 新潟市文化観光・スポーツ部
歴史文化課（担当：歴史資料整備室）
〒951-8131 新潟市中央区白山浦1丁目425-9
TEL 025-226-2584
FAX 025-230-0412
Eメール rekishi@city.niigata.lg.jp